

空中で主と会う

2026年 2月 1日

ヨハネの福音書 14・1～3
テサロニケ I 4・13～18
コリント I 15・35～58

序：大患難期の前に起こること

(1) (時系列)

- ☆①世界戦争
- ☆②イスラエルが国家として再建（離散している地から帰還）
- ☆③ユダヤ人のエルサレム奪還・統治
- ☆④北からの数ヶ国の連合軍がエルサレムに侵攻
- ☆⑤世界統一政府の出現
- ☆⑥十の王国（世界統一政府が分裂）
- ☆⑦反キリストの台頭
- ☆⑧一時的な平和と安全（⑥と⑦が進行中）
- ⑨反キリストとイスラエルの7年の契約（大患難時代のはじまり）

(2) (時系列でない＝患難期前であるがどの段階で起こるか不明)

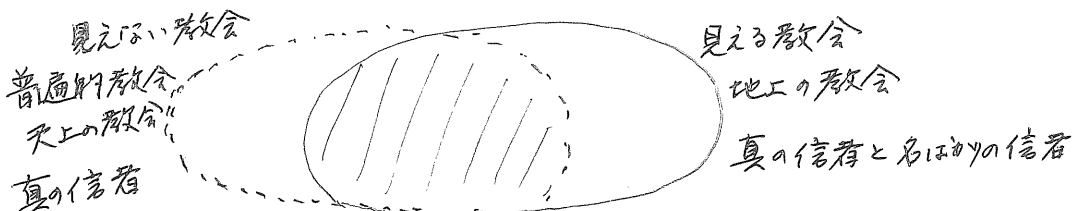
- ☆①暗黒（第一回目、全部で5回）
- ☆②エリヤの到来（メシア再臨の備え）
- ☆③第三神殿
- ★④教会の携挙
 - ⑤キリストの御座のさばき（携挙された信者への報奨）
 - ⑥キリストと教会との婚姻

⑤⑥は④の結果

復習

(1)患難期前に起こる最も重大なこと＝教会（新約時代の聖徒たち）の携挙

(2)教会＝ペンテコステ～携挙の間のユダヤ人キリスト信者＋異邦人キリスト信者



(3)キリスト信者＝神に対する背きの罪を悔い改め、救い主イエス・キリストを信じ、告白して神の子どもとされた／保証として聖霊（のバプテスマ）を受けている

(4)旧約時代の聖徒たちと大患難期の聖徒たちは携挙されない

〃 千年王国で合流 ⇒ 永遠の御国

(5)教会の携挙はイエス・キリストの空中再臨の時に成就する

(二重の再臨：空中再臨・地上再臨)

救い さばき

I. テサロニケ人への手紙 I 4・13～18

(1)この手紙が書かれた背景

テサロニケの教会を開拓したのはパウロ（短期滞在／殺害の危険がおよんだため）
死者の復活について十分に教える時間がなかった
聖徒たちは携挙があること、そして生きている者が携挙されることは知っていた
しかし、すでに死んだ信者は携挙されないのではないかと訝っていた
その疑問に答えるため、2度手紙を書き送った

(2)先に死んだ聖徒たちの状態

今は眠っている（体は活動していない ∴新しい体に復活するのを待っている）
（靈魂は意識がある 活動している）於：パラダイス

主の来臨のとき、復活する（イエス・キリストは初穂）

順序は眠っている彼らが先、次にその時生き残っている聖徒

(3)携挙のプロセス

- ①主ご自身が天から下って来られる
- ②号令（軍の総司令官＝イエス）：死者の復活と生者の引き上げ
- ③復唱の声（御使いのかしら＝ミカエル）：イエスの号令を復唱、計画が始動
- ④神のラッパの響き：戦争・聖なる集会へと民を招集する合図、携挙の前触れ
- ⑤キリストにある（信じ告白して、聖霊を受けた者、天上の教会に属する）死者が復活
- ⑥生き残っている真の信者が、先に復活した彼らとともに雲に包まれて引き上げられる
- ⑦空中で主と会う こうしていつまでも主とともにいるようになる

II. 結び

(1)聖書が携挙について何を示し教えているかを知る

(2)聖霊によって、信じ理解してその成就を待ち望む生活をする

ヘブル 9・28